

第3回大楠幼稚園関係者連絡会会議録

■日 時 令和4年(2022年)7月15日(金) 13:00~14:30

■場 所 大楠幼稚園 2階プレイルーム

■出席者等 保護者、町内会関係者、学校関係者 計10人

教育委員会事務局 古谷久乃(教育総務部 部長)
米持正伸(学校教育部 部長)
飯田達也(教育政策課 課長)
大堀圭輔(教育政策課 主査)
武田裕史(教育政策課 担当者)
渡辺真也(教育指導課 主査指導主事)

- 資 料
- ・大楠幼稚園関係者連絡会名簿
 - ・大楠幼稚園関係者連絡会説明資料
 - ・大楠幼稚園保護者へのアンケート集計
 - ・大楠幼稚園保護者アンケート用紙「大楠幼稚園保護者の皆様へ」

■発言内容

(事務局)

本日は、保護者の代表として、新たに2名ご出席いただいておりますので、皆さま、よろしく願いいたします。

それでは、次第に沿って進行させていただきます。次第の1「保護者からの説明」で、説明をよろしく願いします。

1 保護者からの説明

※資料に基づき、保護者から説明を行った。

2 事務局からの説明

※資料に基づき、事務局から説明を行った。

3 意見交換

(事務局)

ただいまの説明等につきまして、ご質問やご意見のある方は、挙手でお願いしたいと思います。

(保護者)

今の在園児の保護者の方から、ご家庭と個人に直結する具体的なご意見を頂きました。以前にも、何度か閉園に関するお話があったと思いますが、当時、閉園問題に対して動いていた方たちがいらっしゃり、平成9年には23,000筆、平成27年には7,000筆の署名が集まっていました。

こうした歴史の中で、この小規模の話し合いで終わらせてはいけないのではないかと考えていますが、お話ししたいのは、もちろん保護者としての個人的な思いもありますが、横須賀市民として、横須賀の未来の教育ビジョンについてです。小学校や地域と連携した、貴重な教育施設である最後の公立幼稚園がなくなることに對し、将来の子育ての場について心配に思います。

今まで、この公立幼稚園によって救われていた方も多くいると思います。こうした方々にとって、今後、横須賀市内には私立幼稚園しかない状況で、問題ないのかと思います。

2017年、当時の安倍首相が、少子高齢化は国難だということで衆議院が解散されたと思いますが、その少子化に對し、現状、人数が減ったから統合はやむを得ないということもあるとは思いますが、今後、子育てする人たちを増やしていく対策をとるつもりはありますか。こうしたビジョンに関しては、ここだけでは具体的にお答えが難しいと思いますが、ぜひ伺いしたいです。

また、横須賀市の少子化に對しても、具体的にどのような対策やビジョンを考えているか、お話しいただけますか。

(事務局)

少子化問題は、本市としても人口減少が大変重い課題です。

施策としては、例えば、横須賀市に転入される方への住宅の補助などの施策は、以前から今に至るまで行ってきています。

しかし、全体的に人口減少、少子高齢化の流れの中ですので、これらの施策を打ったとしても、今よりも更に増やすことは難しいと思います。

その他、生まれてくる子どもの数や亡くなられる方の数において、本市では基本的に減の方が多い状況です。この状況に對し、これらの施策を継続するとともに、今市長が力を入れているのは、例えば観光、エンターテイメント、スポーツなどについて、本市の魅力や価値を高め、人を呼ぶところに力を入れているところです。

この施策であれば人が増える、という施策はないと思いますので、教育、医療、福祉、防災、地域の活動強化など、こうしたものを総合的に施策を講じながら人を増やし、呼んでい

く形につなげる考え方で、現在進めているところです。

(事務局)

補足しますと、国の施策の中では、例えば幼児教育の無償化、児童手当等、さまざまところで拡充されていると思います。

ただ、あくまでこれが少子化に対して、直接に効果があるかどうかについては、なかなかうまくいかないのが現状だと思います。

その中で、例えば本市の中でも、人口そのものが減ってくる中ですが、教育保育施設という、もう少し大きなところで見たときに、女性の就業率そのものが少し上がってきている部分もあり、保育施設の方に比重がかかってきているというのが現状だと思います。

これは本市だけでなく、全国的に見て教育施設の利用は、10年間で4分の1程度減っているのが現状です。さらに、公立幼稚園がかなり少なくなっていることについて、本市がどのように見るかというところが、今回のお話であると思います。

したがって、今、本市の少子化に対してどのような効果的な事業があるかは言えませんが、教育保育施設という区分で考えたときに、教育施設の方が少し空いてきている中で、公立幼稚園が果たす役割がなくなっているところだと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

(保護者)

幼稚園に比べて、保育園の利用者の需要が増えているということですが、横須賀市としては、これから保育園やこども園を増やしていく方向ですか。

(事務局)

以前、待機児童の話も含めてこのご質問を頂いた中で、本日手元にデータはありませんが、福祉こども部では、これから先の保育利用や教育利用の目標値を定めていますし、想定されるニーズの数値も出しています。その中で、保育ニーズは増え、教育ニーズは減るという数字がありますので、その中での一つの議論であると思っています。

(地元町内会)

大楠幼稚園の廃園については、当初、私も反対しました。教育や子育ては別だと言ってきましたが、それには、大楠幼稚園ができた経緯があるわけです。

以前、大楠地域に幼稚園は1つもありませんでした。近くに幼稚園がないので、他の幼稚園までバスで連れていかなければいけない状況でした。今は幼稚園や老人ホームの車等が動いていますが、そうした状況でニーズが徐々に変わり、ちょうど自分の子どもが入園した頃に大楠幼稚園が開園され、これを機に私立幼稚園から転園してきた子どもも多くいたので、開園当時は、園児がたくさんいました。

ただ、今いる園児の数が少ないのは、皆さまも承知だと思いますが、専業主婦でなければ、園児の出迎えはできないといった環境バックボーンが一つあります。

それから、子育てについて、私立か公立かを問わず、国で相当支援していただいたことになっていきますので、この大楠幼稚園をいつまで延ばすかについては、いろいろな考えの方がいらっしゃると思います。やはり、自分の子どもを大楠幼稚園に入りたいと言いますが、大楠地域全体で見れば、全てがそうではないと思います。

あれだけの幼稚園にバスが来ます。そういう中で、だんだんニーズが変わり、在園児も減少すると、今度は幼稚園の経営の問題になります。

大楠幼稚園の運営は税金で賄われているので、この先はどうなるのかも含めて考えていただければ良いかと思います。

保護者の皆さまの思いやお気持ちはわかります。誰でもそこが良いと思うから入れたわけですから、大楠幼稚園を継続してもらいたいけれども、将来入ってくる子どもたちが、当初の目的のような環境でもってできたのかどうかということが、自分が一番気になります。

この現状を見た場合に、どうなのかということが議論されている状況ですので、そこも含めてご検討いただければと思います。

(保護者)

当時のご意見を伺えて、とても参考になりました。

どの保護者に話しても、お母さん以外でも、客観的な意見を教えてくださいということで、私たちもいろいろな方に聞きます。なぜその2年保育を変えないままなのでしょう。それでは子どもも減ります。

また、無償化の話が出る時点で、子どもも減るのが確実にわかっていたことだと思いますし、さらにその話の前から閉園の件がありましたが、当時3年保育や延長保育等のニーズはありました。それでもそのニーズに対して検討がなされなかった理由と経緯について、ご説明いただきたいです。

(事務局)

当時の職員ではないので、はっきりとしたことは分かりません。

ただ、今町内会長からもお話がありましたように、大楠幼稚園ができた経緯を考えますと、当時、本市の公立幼稚園は諏訪幼稚園のみであったと思います。

その後、昭和54年に大楠幼稚園ができたと聞いています。その中で、この公立幼稚園の位置付けが、民間幼稚園を補完する役割ということで成り立っていると思いますし、2年保育というのが、具体的にその役割を担っていたと考えています。

(事務局)

少しわかりにくい部分があったかもしれませんが、昭和54年当時、子どもたちの数も非常に増えてきて、民間幼稚園だけでは対応し切れなくなっている状況がありました。

そのような中で、民間幼稚園の受け皿として、公立の幼稚園を大楠地域に作ったというのが当初の経緯です。

あくまでも補完という役割ですので、公立が民間水準を超えるサービスを行うわけには

いかなかったという経緯があります。そのようなことから、園バスについても開園当時からなかったと思いますし、その後に3年保育又は延長保育の新たなニーズが出てきても、給食もなければ、当初の2年保育のままという運営を続けてきたということです。

(保護者)

私立幼稚園の補完的役割が理由として挙がっていますが、まず大楠地区には幼稚園がないというのはもう昔から変わりません。園バスがあるので大丈夫ではないかということですが、例えば、他の相武、城北、武山の幼稚園等は、大楠地区から距離があり、土砂災害のハザードマップを見ても、津波警報や土砂災害警報に当てはまる区域です。

災害や有事が発生し、子どもを迎えに行けない場合には、どのような対応をお考えですか。

(事務局)

民間の幼稚園にて防災の対応などのマニュアルがあると思いますが、それに基づいて対応されると思います。

子どものお迎えのご心配もあると思いますが、基本的には、子どもも大人も、災害の発生時にはその場で待機などをして、周囲の状況が落ち着いてから動く形になると思います。

(事務局)

例として一番良いのは、小学校だと思います。

小学校1、2年生が、通学中に巨大地震などの災害にあった場合の、学校の対応について申し上げますと、巨大地震が発生した後の余震が懸念されますので、校庭又は高台に避難する等、最大限一番安全な場所に避難します。

その後も、交通網の遮断、崖崩れ等で帰宅できないなどの場合には、学校の職員が、保護者に児童を引き渡すまで、必ず面倒を見続けるという対応をとることになっています。

それがどこの場所でできるかというのは、地震が起こったときの状況によります。例えば、校舎に戻った場合に、体育館が無事であれば体育館、体育館も危なければ校庭に設置したテントを使う等、さまざまな方法を駆使して対応します。

(保護者)

先日小学校でも、災害が発生した場合の子どもの引き取り訓練が行われましたが、それは、徒歩で迎えに行ける距離という前提での訓練ですよ。

武山幼稚園や相武幼稚園は、徒歩で1時間半以上かかる場所がありますが、例えば、小さい子を連れてお迎えに行き帰ってくるのは、実際には本当に厳しいと思います。

幼児教育の地域というものを考えると、徒歩で、確実にすぐ駆けつけられ、お迎えに行ける距離というのが、今の幼児教育の地域ではないのでしょうか。なぜ、引き取り訓練をしているのかと思います。

(事務局)

引き取り訓練の要件の中には、徒歩で行ける距離という規定はおそらくないのだと思います。

実情として、小学校でもかなり遠くからバスで来ている子どもたちもいますし、幼稚園の現状を考えれば、私立は園バスでかなり広範囲な地域から来ているわけです。

距離というよりも、保護者に引き渡せる時期が来るまで、いかに最後まで、幼稚園や小学校の子どもへの面倒を見続けるかという点に重きを置いていると思います。

ですから、他に小さい子どもを抱えていて家から動けないということであれば、幼稚園、保育園、小学校で預かっているお子さんを学校に宿泊させ、次の日に保護者が迎えに来るのを待つ。それでも来れなかった場合は、その後も学校に宿泊させ、保護者に引き渡すまで面倒を見るということになります。

(地元町内会)

一番身近な例として、東日本大震災発生時の大楠小学校の対応について説明させていただきます。

震災当時、私は自宅におり、町内会の役員もしていましたので、まだ大楠小学校はやっているだろうということで、小学校へ向かいました。

大楠小学校では、子どもを引き取りに来たという保護者には引き渡しますが、引き取りに来れない人たちへの対応として、大楠地区の広域避難所である大楠中学校に子どもたちを連れて行きました。

そもそも、この大楠幼稚園・小学校がある場所は東日本大震災級の津波には耐えられませんので、子どもたち全員を中学校に連れていくことになりましたが、結局、保護者は横浜などからなかなか帰って来れない状況でしたので、最後に子どもを迎えに来たのが、夜の10時頃でした。

大楠地域は、山側では土砂災害の危険地域内にあり、海側は津波の被害を受けやすいという状況なので、非常に危険なところが多いのです。

市に苦言を言うわけではないですが、FMプランの中で、要するに災害とはあまり関係ないですけども、大楠地域はこのような災害の危険が多い場所であり、将来的にはインフラの整備費用もかかるので、芦名地域へ集合するという具合に、大楠地域の皆さまには住んでもらいたいというプランもあるようです。それはなかなか難しいと思いますが、災害と避難という面で、非常に難しいところがあります。

校長先生など学校管理者としても、子どもたちを家に帰していいかどうか。実際に、その判断が悪く、亡くなってしまった方もたくさんいます。災害は起きてみないとわからない部分もありますが、予見として、ここまでは波が来て、この地震だと土砂が崩れるということも含めて避難訓練をしていると思います。

別の地域の話ですが、自分の孫は葉山の幼稚園に通っていますが、避難訓練はしています。

大人でも徒歩1～2時間程度かかるところにあります。保護者は、実際には歩かずにバスで来ています。その良しあしは別としても、その場合には、保護者の判断などで迎えに行

く形になると思います。

家が近いから送迎はできますが、そうでないところは、道路を含め交通機関がどうなるかわかりませんので、一概に避難訓練したから大丈夫、ということはないと思います。

(保護者)

ありがとうございます。

1人の親として不安な気持ちで考えているので、それをお伝えさせていただきました。

その他、伺いたいことが幾つかあり、今回第3回の説明会ですが、今後、地域説明会も開かれないという前提の中で、私たちが聞いている質問などをここで挙げきれるかわからないのですが、もう少し話し合いを重ねさせてもらいたいと思っています。

話の途中で最後の方の話をして申し訳ありません。

(事務局)

次回の説明会については現時点で未定ですが、事務局としては、この会議をメインに考えていますので、何か動きがあったりした場合には開催をしたいと思います。

(保護者)

どのような動きがあった場合に、説明会をやっていただけるのですか。

(事務局)

今回は、大楠幼稚園の閉園を令和6年度末という方針が決まったことを受け、本日は関係者連絡会を開催しています。

想定されるのは、今後の予定も含め、どのような形で決定されていくのかというところで考えています。

(保護者)

つまり、地域説明会は開催されないということですか。開催されないのであれば、その理由を具体的に教えてください。

(事務局)

6月の在園児保護者説明会でもご説明しましたが、今回については、地域の方に広く知っていただきたいということで、町内会の回覧をお願いしています。大楠地域の全世帯に回覧されているはずですので、その中でご意見がある場合は、教育委員会までお願いしており、実際にメール等でご意見を頂いています。

直接、保護者の代表の皆さまにもご意見が来ているとのことですが、そうしたご意見をこの場でご紹介いただくこともそうですし、もしご意見があれば、直接教育委員会へ頂ければと思いますし、それを握りつぶすようなことは一切いたしません。

頂いたご意見については、教育委員会にもご報告し、それらを判断材料として、最終的に

教育委員会で決定をしていただくプロセスを踏んでまいります。

もし、周りにご意見を言い足りないという方がいらっしゃいましたら、教育委員会へ直接届けていただくようお願いいただければと思います。その方が間違いないと思います。

(保護者)

大楠幼稚園の廃園問題の時は、保護者の他に町内会の方も説明会に参加できました。今回はその方々が参加できないのは、どのような理由からですか。

(事務局)

第一義的には、今の在園児保護者のご意見を聞く必要があるということで、保護者説明会を含め、こうした会議を開かせていただいているということと、また、入園を検討される未就園児をお持ちの保護者の方に対し、ご意見を伺うことを行ってまいりました。

地域の方の中には、大楠幼稚園の卒業生、そして卒園児の保護者の方もいらっしゃいますが、さまざまな思いをこの幼稚園に持っていていただいている中で、この閉園に関していろいろなご意見をお持ちだと思います。その気持ちに対し、現在、非常に小規模になってしまった大楠幼稚園が抱えている課題を解決するために、どのようにお答えできるかというのは非常に難しい問題だと思っております。

そうしたことも含め、まず説明会については、直接関係される方、また、これから関係されるであろう方に対して、これまで説明会をやってまいりました。

ご意見については、閉ざしているわけではありません。繰り返しではありますが、どうぞこちらにご意見を届けていただければと思います。

(保護者)

第1回の連絡会の時点で、私たちは役員ではありませんでしたが、議事録の中に、0～3歳児の保護者には郵送でお知らせする旨が書かれていましたが、それがなかったのはなぜですか。

(事務局)

当初、郵送にてお1人ずつに対して開催通知のご案内を考えていました。

しかし実は、住民基本台帳をもとにした個人情報を使って説明会の案内を行うことは、目的外の使用に当たり、非常に難しいことがわかりました。そのため、その方法は採らず、町内会の回覧の中で皆さまにお知らせをさせていただいたということです。それが十分に行き渡らなかったというところについては反省点ですが、もしそこでご意見が言えなかったという方については、地域の方と同様に、直接教育委員会にご意見を頂ければと考えております。

(保護者)

平成9年に廃園問題が出たときに、署名で23,000筆、平成27年には7,000筆集まりま

した。それほど、実際に大楠幼稚園に思いを寄せてくれている地域の方々がたくさんいます。

その人たちのためにも、教育委員会には、地域の方々に現状と今後についての説明をする責任があると思います。ここにいる4人だけで代表して出るのは、とても荷が重すぎます。

(事務局)

もちろん、今保護者の方のみに代表して出てきていただいているわけではなく、今、町内会会長の皆さまにもご参加いただいています。

繰り返しになりますが、地域に説明会を開いてください、また、私はこういう意見が言いたいという方は、実際に私どもの元に直接メールが来ているケースもございますので、直接ご意見を頂ければと思います。それを、皆さまに聞いていただき、こちらへ反映していただくことのお願いはしていません。

(保護者)

本当はもう少し閉園のことで話し合いたいのですが、閉園自体のことについてです。

閉園時期が令和6年度末ということで、案3である令和8年で閉園という意見が再三あったと思いますが、それはもう取り上げていただけないのでしょうか。

(事務局)

1年延長ですと、令和7年に閉園ということではよろしいですか。いずれにしても、延長してほしいということですか。

(保護者)

具体的には、なぜ令和8年かというところですが、まず、令和6年は避けた方がいいのではないかと考えていましたが、令和6年に閉園するっていうことは、次の募集を行わないということですよ。

(事務局)

当初の資料で出している案1と案2の中で、案1が令和5年度末閉園、案2が令和6年度末閉園になりますので、案1の令和5年度末閉園というのが、次の募集をしないという形になります。

案2の令和6年度末閉園というのが、今年度が最後の募集になるという形になりますので、今回は案2で進めていきたいという報告でした。

(保護者)

理解しました。

令和8年でお願いしたい具体的な理由は、来年度年長になる子どもに2つ下の兄弟がいますので、大楠幼稚園にご兄弟で入れないとなりますと、私立幼稚園など別の幼稚園に行かせなければいけないのでしょうか。

この家庭の中で、子どもが別々の幼稚園に通い、その送迎をする中で具体的な問題が出てきます。ですので、そうした在園の子どもや家庭に影響がないのが令和8年だと思いますが、どうなのでしょう。

(事務局)

大変申し訳ありませんが、1年延長については、以前からご説明させていただいてますが、その時の保護者の方の状況もあると思います。

表現が難しいですが、エンドレスに陥る状況となりますので、このようなお話の場合は、一定の区切りというのが必ずありますので、これ以上、閉園時期を延長することは考えてないというところです。

(保護者)

以前から線引であるとか、きりが無いという話をされると、納得しにくく感じますが、それであれば、大楠幼稚園に入園する際に、閉園の可能性のあることを伝えていただきたかったです。

そうでないと、在園中に閉園になるかもしれないということで、ここでの在園中というのは、今在園している間ということではなくて、今入園してみたら、この閉園の話が出てきて、明日のこの問題が出てくるんだという中で、それが今年度年長が入る前に、閉園の可能性もありますということで、説明がなされていた方が良かったと思います。

(地元町内会)

募集の際に、その旨を説明してないのですか。

(大楠幼稚園)

諏訪幼稚園は閉園しています。大楠幼稚園については、閉園する方向だという言い方だったと思います。

(事務局)

まず、閉園時期をあまり伸ばさない方がいいと考えている理由の一つとして、大楠幼稚園がすでにかなり小規模化していることです。子どもの数がかなり少ない中で、今園の方でいろいろな工夫しながら教育活動を行っていただいておりますが、やはりこの年代の子どもにとって、集団の中での学びというのが非常に重要であると考えていますので、今以上に子どもが少なくなることは、教育環境として望ましくないと思っております。

この廃園の話が出てきたときに、具体的に閉園の時期が決まってしまうと、またさらに下のお子さんがいらっしゃる方は、おそらく大楠幼稚園を避け、上の子から別の幼稚園にする選択もされる可能性を考えますと、今以上に子どもが減るのではないかと、私たちとしては大変危惧をしているところです。

したがって、閉園時期については先延ばしにしない方がいいと判断しています。

また、こうした検討がなされていることの周知につきましては、平成 28 年度に閉園についてはすでに決定されておて、閉園時期については、今後取り巻く状況に応じて、別途検討するという形にしておりましたので、その時から募集要項には、必ず閉園については決定していますが、時期については未定である旨を記載しております。

そのため、皆さまにおかれましては、全く閉園の可能性がないというご認識ではないかなと考えていたところですので。もしその周知が不足していたということであれば、大変申し訳なかったと思います。

(保護者)

閉園の方に話を戻してしまいますが、未就園児向けの説明会で、事務局の方から、支援を要する園児の受け入れをしていないということであれば、所管する部局がきちんと指導監督しなければならないと思いますので、所管する部局と連携し、実情等を教育委員会として把握する必要があると考えています、とお答えいただいたのですが、こちらも把握はしていただけたか。

(事務局)

申し訳ありません、把握はしていないのですが、これから、例えば大楠幼稚園が廃園した後、民間幼稚園で障害児等支援を要する子どもの受け入れについては、これからお願いする話だと思っていますので、これから民間幼稚園の方をお願いという形でやっていきたいと思っています。

(保護者)

これからお願いとなると、体制が整うまでに時差がでてくると思います。

現在、自閉の子どもがいらっしゃる親から聞きましたが、療育の方に相談され、他の子どもとの関わりを早いうちから始めた方がいいということであり、大楠幼稚園は2年保育なので、この地域の中での3年保育を勧められました。

その時に挙げたのが、武山幼稚園と大楠愛児園だったということで、現状として、まだ受け入れ体制があるかどうかわからないということですよ。大楠幼稚園という受け皿がなくなってしまってから他にお願いをするのは遅いです。もう少し早うちに体制を整えないと遅いと思います。

(事務局)

なるべく早急に、私立幼稚園へお願いに上がりたいと思っています。

(保護者)

横須賀市の方で、スクールコミュニティという取り組みが始まっていると思いますが、今行っていることというのは、まさにその地域と学校が連携して教育をしていくということです。それは大楠幼稚園でもずっと行っていることです。幼稚園と小学校の連携もあり、

地域との繋がりも密接で、地域に根差した幼稚園だと私は思っています。その幼稚園を宝であり、財産だと思い、地域にある唯一の幼稚園を皆でより良くしていこうということで、今目の前のことだけではなく、将来10～20年後も、子どもたちがしっかり地域で安心して過ごしていけるということを考えて、今このように話し合いを進めていければと思います。このことを見ると、大楠幼稚園は、今実践しているし、むしろモデル園としてやっていって欲しいぐらいに思います。

(保護者)

たまに定例議会の方の録画を見させていただきますが、教育長も市議会議員も、一生懸命教育に関して考えてくださっているのが本当に伝わり、理解されているなど思いながらも見ています。

この大楠幼稚園は、実際に経験している園児の保護者だからわかると思うのですが、私たちはこの日本中で誇れるぐらいの幼稚園だと思っています。

もちろん、感情だけで閉園にしないで欲しいというのは、きっと無理な話で、いろいろなことが絡んでくる話だと思うので難しいこともわかっていますし、いろいろな意見があって当然だと思っています。ですので、もちろん私たちもそれはわかった上で今お話しているのですが、ぜひ、教育長にも、この横須賀の教育を大変考えてくださっているのであれば、この大楠幼稚園をもう一度見に来て欲しいというのが、私たちの思いでもあります。

(事務局)

今の思いは、教育長にはお伝えしたいと思います。

(保護者)

今この場でしか言えないのが私たちはとても悔しく、本当にお会いしてお話したいくらいなのですが、最後に間接的でもいいので、一度そうした思いを伝えていただき、それに対する回答をきちんと教育長から頂ければ、私たちはとても嬉しいです。

(事務局)

教育長から直接、若しくは私たちを通じてか、というところは、こちらで検討させていただきたいですが、前段におっしゃっていた、教育長が大楠幼稚園を見に来るという部分につきましては、実は現在の新倉教育長もそうですし、それ以前の教育長もそうですけども、毎年全ての学校を必ず訪問しています。それで、本市には幼稚園以外にも小学校が46校、中学校が23校、それから特別支援学校2校で、高校は1校あるんですけど、それ合わせて72の数の学校施設を、必ず毎年全て訪問しています。そして、現在の新倉教育長は平成29年の7月から着任されてるので、そこからもう5年間ですから、ここには5回以上来て、子どもたちの様子を見ていますので、その部分について、教育長はよく存じています。

(保護者)

大楠幼稚園を見ていただいた上で閉園をされるということですよ。

(事務局)

その検討はこれから教育委員会で行います。

そこに、今頂いたご意見も加えながらやっていきたいというのが、私たちの考えです。

(保護者)

わかりました。ありがとうございます。

子どもを主役にするまちづくりと掲げている横須賀市だと思うのですが、これほど小学校と幼稚園が隣接し、教育にとって条件を満たしてる幼稚園が他に、見当たらないと思うのです。そこをもう一度考えていただきたく、私立の補完的な役割としてできた幼稚園ですが、子どもたちの精神面も含めて、いいところがたくさんある幼稚園ですので、目の前のことで話し合うのではなく、せめて3年保育の延長や、10年から20年やった上で、初めて廃園問題を出すのが正しくて理にかなっているのではないかと思います。

どうしても3年保育や延長保育はできないのですか。入園児が減少しているから廃園というマイナスの点ばかりではなくて、より活気づけるような方法や、大楠幼稚園を盛り上げていくように進めていくことがどうしてもできないのですか。

(事務局)

先ほどの答えの繰り返しになりますが、やはりこれだけ少子化が進み、今の西地域、また本市全体で見ても、幼稚園については、私立の幼稚園に定員に空きがあるような状況の中で、今この公立の幼稚園について、さらにサービスを向上させ、園児をこれから増やしていこうという施策は打てないというのが現状です。

(地元町内会)

この廃園が決まった最初の頃からの経緯を説明すると、私も先ほど言いましたように、やはり廃園には反対でした。

ただ、最初の頃は、皆さま泣いて嘆願していました。会長さんがぜひ残して欲しいと。そういう私も、最初は大変反対しましたが、結局決定したのは議会ですから、市議会議員も、皆さまご承知のように、もう大楠幼稚園は廃園しますというところで決まった今、その折衝をしているわけですが、私に言わせてもらいますと、一番残念だったのは、その当時、付近にはまだ知ってる人がいたので、どうなのかと聞いたところ、自分の子どもは卒園したからもういいですとのことで、私は腹が立ちました。

結局、自分の子どもが在籍しているからこのように言うけれども、本当にそれを聞いた時は、もうやっていられないと思いました。教育は違うということ、当時の教育委員会のメンバーには話をしましたが、その後、やはり頑張ろうと思い、皆さまのご意見を聞こうと思ったら、自分の子どもも来年度には卒業だからどうでもいいということでした。

全員がそうだということではないですが、そのようなものではないかと思えます。

(保護者)

確かにそういう意見も一つあるかもしれませんが、今ここにいるのは、我が子だけではないし、未来の子どもたちに対して残したいと言っているのです。ここまで豊かな大楠幼稚園を残してくれたように、未来にも残していきたいのです。

(地元町内会)

気持ちはよくわかります。

今、全国単位で学校運営協議会ができて、学校が地域と一緒にやっていく動きは、もう大楠小学校、大楠中学校でやっています。それが、今年4月から正式に全国規模でやりましょうということが伝わってきたので、特に大楠地域は、小学校、中学校にしても、幼稚園もそうですし、地域とのつながりが非常に強いところです。校長先生もよく知っているとありますが、校長先生も考えてきていて、地域の行事に全て参加しなければいけないということで、我々も一生懸命に取り組みますが、土日には大変力を尽くしていただいています。

今までのこの経緯を見ていると、皆さまの気持ちはよくわかりますし、町内会でいろいろな応援をさせていただきますが、やはり町内会といっても考えは十人十色で、自分の子どもや孫が当事者に入っていれば応援するけど、自分には関係ないという人もいないわけはありません。いろいろな考えの人がいる中でこの話を進めていかなければならないので、非常に大変です。皆さまの気持ちは私もよくわかりますが、実際に皆さまの努力で、この大楠幼稚園が従来の定員規模まで盛り上がるかという、それは期待できないでしょう。

あと一つ考えますと、大楠幼稚園は公立ですから、税金で運営されている部分もあります。横須賀市も人口がどんどん減少し、理由は私たちが先ほど言いましたように、インフラの整備が大変です。そうしたFMプランでもって、大楠地区に関しては、ある程度集中したところに住んでもらえないかというような施策ができています。

ですから、この大楠幼稚園の存続はいつまでということについては、どこかで決めないと大変だということです。市の代弁をするわけではありませんが、地域として、せっかくここまで来ている経緯ですとか、皆さまが子育てしてる様子を見てのところでいくと、やはり十人十色という側面が強く、我々がいくら頑張っても、地域内の行事も含めてそうした側面があるので、どこかで区切りをつける必要があるとは思っています。閉園の方向性は、もう決まっしまいましたので。もし決まっていなければ、最初から大反対しています。

せっかくできた大楠幼稚園は、大楠地域に1つしかないのも残してほしいということで反対しましたが、もう決まった分についてぶり返すわけにはいきません。そして、校舎は古くなればなるほど、改修工事を含め、いろいろな部分についてメンテナンスしていかなければいけないということもあります。その辺も含めてどうするかということについて、皆さまの気持ちはわかりますし、応援はしますけれども、どうしたらいいかというのはなかなか難しいのかなと、私は思っています。

(保護者)

ありがとうございました。その教育施設を宝だという思いを伺うことができました。

それで、あまり話したくないのですが、閉園の時期については令和6年度末という方向で検討するというのですが、これはいつ決定しようかとされているのでしょうか。具体的に、いつの会議で決めようと考えているなど、そういうものがあれば教えていただきたいです。

(事務局)

まず、先ほどからお話しいただいているご意見について、必ず議会や、教育委員会の定例会の方に必ずお伝えすることをお約束します。この内容についても、改めて地域の回覧等でお伝えしていかなければいけないと思っています。

いずれにしても、令和6年度末閉園という方向で検討を進めるに当たり、まず一番直近に予定されているのは、来年度の入園募集です。の募集の中に、令和6年度末閉園する旨を記載させていただきますので、これについては教育委員会の中で決定して形になりますので、10月までには決めていかなければいけないと思っています。

(保護者)

今はまだ方向ということで、決定はしてないということですよ。10月までに決めたいと思っていらっしゃったのですね。

(事務局)

当然、私どもだけで決めることではありませんので、必ず教育委員会という組織の中で決めていきますので、その日程の中で決めていく形になります。それでまだ決まっていないということです。

(保護者)

児童の人数が減少してしまうので、少し閉園の時期を延ばすよりも閉園ということで、先ほどおっしゃっていましたが、それは、今まで行われていた幼児研究などで得られた結論なののでしょうか。そういう研究がなされて、より児童の人数が多い方がいいと書かれた、具体的なマニュアルがあるのでしょうか。

(事務局)

これについては、明確な論文や、研究結果としてお示しできる資料はないのですが、やはり他の都道府県の小学校や中学校について、生徒が少なくなり、学校の規模が縮小したり、廃校になったり、他の学校と統合したりしていく過程の中で、極端に少なくなってしまった人数の中では、例えば、10人以下の学級の中で、男子が1人で女子が5～6人というクラスで1年間にわたり学校生活を送らなければいけないというものです。この状況で、修学旅行やキャンプに行ったり、遠足に行ったりということをしなればいけないという、クラスが大人数であった時にはあまり顕在化しなかったことが起こってきて、非常に教育がやり

にくくなるということが実際に起こっています。

小さい子どもであれば、あまり男女の差を気にせずに運営できるのかもしれませんが、やはり小学校の現場ではそのようなことがありましたので、ある一定の人数規模の子どもたちで運営することは大変重要なことだというのは、その部分で裏付けがあると思います。

また、子どもの遊びにしても、例えばドッジボールをする場合、5～6人でやるのと、10数人でやるのとでは比べますと、その内容について、子どもにしてみれば非常に大事なことだと思いますが、面白さやわくわくさといったものが、少人数だと効果的には非常に小さくなってしまいうようなこともあるのではないかと、小学校の事例ではありますが、見ていてそのように思うことがあります。

(事務局)

幼児教育の部分では、自立という部分が非常に重要になると思います。

少人数だと、子どもから先生に目がいきやすくなるので、そこで、子どもが自分でできるように促していくよう先生からの声掛けがあると思いますが、どうしても子どもがすぐに先生に頼りやすくなってしまふ部分があります。その点で、子どもの数が多い場合は、友達がやってることを真似してみたり、先生に頼れない分、自分でやってみようというところもあったりすると思っています。

後は、先ほど出ました遊びがダイナミックに展開していくところについても、少人数だとどうしても難しくなってしまうところがあります。

(保護者)

ありがとうございます。わかりました。

今細かく説明していただいて分かったことですが、他の議事録では、在園児保護者には出ますよね。それで、他の地域の皆さまには、結局決定事項しかわからないと思います。

一番気になっていた、無償化以前に対策がなされなかったことについても、今回伺い、それは私立幼稚園のサービスを越えることができないからということではっきりおっしゃられましたので、そういう理由も含め、今後決定していくことがあるのであれば、それが市民にもわかるようなものを作っていただきたいのが一つと、具体的に大楠幼稚園の閉園時期について、閉園による影響がある家族についても、もう決定したことで仕方ないことで、申し訳ありませんということではなく、より先回りし、例えば具体的に途中から入園できる私立幼稚園はここですよといったケアをしっかりやっていただけなのかということがもう一つです。閉園は決まったことなので、後のことは知りませんではとても不安です。

それなので、この連絡会が終わった後、会議などの予定がないということですが、ここで私たちは、本当に最後の公立幼稚園をなくしていいのかということが一番話したかったことなのですが、もし決定するのであれば、また改めて説明会、若しくは話し合いをさせていただける場を作っていただけないかと思っています。

(事務局)

今いくつかご質問を頂きましたが、まず閉園に関する詳細につきまして、例えば、議事録についてはホームページに掲載させていただいています。また、これから大楠地区の皆さまに回覧等を進めていく中で、そうしたご案内等もしていきたいと思っていますし、今ご提案いただいた内容については検討していきたいと思っています。

また、私立幼稚園への途中入園については、今この場でできるかどうかはわかりませんが、これから私立幼稚園の方にお話をしていく中で、そうしたことが可能かどうかというところは検討していきたいと思っていますので、ご提案ありがとうございました。

次に決定についてですが、例えば入園の募集要項の内容などが決まれば、当然、これを関係者連絡会の皆さまにご報告したいと思っていますので、その際は改めてこの関係者連絡会を開催させていただきたいと思っています。

(保護者)

同じような形でですか。

(事務局)

そうです。

(保護者)

その時に跡地利用の話も進めていくのでしょうか。

その前に、跡地のことについても話し合いの中で進めていくとおっしゃっていました。本当はその話はしたくないのですが、しなければいけないと思いますので、そうした話し合いの場を開かれるということでしょうか。

(事務局)

跡地利用の件については今日の資料の3ページのところで、跡地の利活用という話をさせていただいてと思っています。

今まで頂いたご意見の中では、放課後児童クラブ、放課後子ども教室、地域の皆さまが集える居場所といったご意見を頂いています。基本的にはこれらの意見に沿って、今後、FM推進課など関係しているところと連携しながら活用の検討をしていくこととなります。

これについては、まず、大楠幼稚園の閉園時期がしっかり決まった後で考えていきたいと思っています。ただ、ここに記載されている部分については、最優先事項だと思っていますので、これらを中心に進めさせていただきたいと思っています。

(保護者)

跡地利用に関する意見というのは、メールで意見があったというこの内容ですか。それとも、例えばそこにいろいろ意見があったら、それを重要視して決めていくという感じですか。

(事務局)

ご意見として頂ければ、それを頂戴する形になりますので、お寄せ頂ければと思います。

(保護者)

議事録についてですが、私も前回やその前と録音させていただきましたが、実際の議事録はだいぶ端折った内容になっているので、しっかり一人一人が言ったことを議事録にしてホームページに載せていただくようお願いします。

(事務局)

今作成している議事録については、あくまで概要版という形ですので、おそらくそれをもって端折られていると思われたのかなと思いますが、今回も、この後にご説明いたしますが、議事録の校正を必ずお願いする形になりますので、その際に何かお気づきのところがありましたら、言っていただければと思います。

(保護者)

平成27年の議事録も全部読ませていただきましたが、しっかり一言一句載せていました。それとは違い、概要版となっていますけど、それだと、他に読んだ人も内容自体の把握ができなと思います。ですので、その言葉のニュアンスも含めて全部がわかるようにしっかり話した内容を載せていただく形でないと、誤解が生まれてしまいますので、そこはしっかりお願いしたいです。

(事務局)

いずれにしても、会議録については事前に皆さまに確認してもらっていますので、その内容を確認していただき、何かありましたらご意見を頂ければと思います。

(保護者)

私たちがいろいろ過去の資料も見て、内容をあまり重複させないようにお話をしたかったのですが、今まで寄せられているメールや、この場で出た意見や質問などが、Q&A方式で出していただくことは可能でしょうか。大変な作業になると思いますが、これはどうなのか、こうして欲しいとか、例えばその中でも多かった意見に対してであったり、何度も聞かれている質問であったりに対して、そのQ&Aの方式で答えがありますと、全体的によく理解ができると思います。何度も同じことを聞いてしまったりしていますので、いかがでしょうか。

(事務局)

可能です。それについては、どのような形がよろしいですか。

(保護者)

保護者に配布と、ホームページへの掲載をお願いします。

(事務局)

作成し次第、対応します。

(保護者)

よろしくお願いします。

(事務局)

それでは、時間が過ぎていきますので、これで第3回大楠幼稚園関係者連絡会を終了させていただきます。会議録についてはまた確認をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

以上